

会議報告書

- 【会議名】 第3回 三朝町生涯学習推進プラン(仮称)策定委員会
【日時】 令和6年11月6日(水) 午後6時30分から午後8時30分まで
【場所】 役場第2会議室
【出席者】 (1) 策定委員 8名(欠席3名)
(2) 事務局 2名

【報告事項】

1 会議の成立

策定委員会設置要綱第6条第2項に基づき、委員の半数以上の出席(11名中8名の出席)を確認し、本会は成立。

2 会議内容

- (1) 委員長挨拶 ※議事録参照
- (2) 生涯学習推進プラン(仮称)の構成案について(協議)
- 資料のとおり構成案が承認された。
 - 今後、この構成に基づきプラン内容を協議する。
- (3) 第4章「計画の方向性」について(協議)
- 本プランにおける「基本目標」「基本施策」について協議。
 - 「基本目標」を以下の3点とすることを決定。

ア 文化・スポーツの振興
イ 企画・提案する機会とつながりを創出
ウ 学びの環境と町づくり

- ⇒ ア～ウの基本目標(原案)を基に、事務局で「基本理念(案)」を作成し、次回策定委員会で再協議(確認)することとなった。
- 「基本施策」は資料の各委員案を基に整理し、同じく次回策定委員会で再協議する。(次回策定委員会は『第5章 施策の取り組み』を協議予定)
 - 協議の経過及び意見等は、別添「議事録」参照

【会議後の事務局対応】

- 前述のア～ウを基に、基本目標(原案)を以下のとおり再整理(ver2)。

① 学びの環境と企画・提案する機会の創出
② 文化・スポーツの振興
③ 連携を核にしたつながりづくり、人材育成

- ①～③の基本目標案を基に基本理念(案)を作成。

【事務局案】

- | |
|---------------------------------------------------|
| ① 学び合う“みささ”！ みんなで育てる未来の力
(学びの環境と企画・提案する機会の創出) |
| ② 元気で心豊かな“みささ”！ スポーツと文化で笑顔づくり
(文化・スポーツの振興) |
| ③ つながる“みささ”！ 協力で広げる地域の未来
(連携を核にしたつながりづくり、人材育成) |

【会議中に挙げたキーワード】

- | | | |
|----------------------|--------------|----------------|
| ・いつでも、どこでも、だれでも、なんでも | | |
| ・学ぶ環境づくり | ・推進体制 | ・つながりづくり |
| ・健康づくり | ・地域づくり | ・まちづくり |
| ・楽しく、元気に | ・文化振興 | ・企画・提案する機会を作ろう |
| ・儲かる | ・参加しやすい | ・提案しやすい |
| ・地域協議会 | ・コミュニティースクール | |
| ・生涯学習推進の検証 | ・世代間交流 | ・子どもたち |
| ・人生100年時代 | ・人に会う | ・人材、リーダー育成 |

(4) その他

- ・次回策定委員会（第4回）は、12月4日（水）18時30分から開催することを決定。

第3回 三朝町生涯学習推進プラン（仮称）策定委員会 議事録

日時：令和6年11月6日（水）

午後6時30分～午後8時30分

場所：三朝町役場 第2会議室

1 委員長あいさつ

いよいよ具体的なプランを検討する段階となりました。

ぜひ、いろいろな案を出していただいてプランを形作っていきたいと思います。ご協力をよろしくお願いします。

今既にあるものも利用することはプランを検討する上でも大事にしたいことですので、みなさんの経験や立場から「こういうことが大事だと」ということを盛り込んでいきたいと思います。

2 議題

事務局

本日の策定員委員会の日程及び目指すべきゴールを説明します。

まずは本プランの構成案をお諮りします。これを御確認いただけましたら「第4章 計画の方向性」について御意見をいただき、本プランで定める「基本目標」「基本施策」の決定を目標としたいと考えます。

以降、委員長に進行をお願いします。

（1）生涯学習推進プラン（仮称）の構成案について

委員長

まず本プランの構成案について協議します。

この会が始まる前に話が出ていたのですが、冊子を作るのも大事ですが、町民に対して分かりやすい概要版を作る必要があるのではないかというご意見をいただいています。私もそのように考えており冊子と概要版を作っていきたいと思っています。

第1章では生涯学習の大きな流れの話をここで書いていきます。

第2章では計画の経緯等を示す内容となっており、第3章では今年度実施の町民意識調査の結果や策定委員会の意見を基に三朝町の現状と課題をまとめます。

第1～3章についてはこれまでの策定委員会で議論を行っているものです。

問題は第4章で、ここでは計画の方向性を示すものです。第5章で具体的な取り組みをまとめ、第6章で実際の生涯学習推進体制の話となってきます。

本日、第4章において計画の方向性を考えていくことになりますが、大事にしたいのは、昭和63年に宣言された「生涯学習の町宣言」です。ここで記された内容を継承したいと思うので、このあたりも盛り込んでいきたいと考えます。

説明は以上ですが、このような構成でよろしいでしょうか。

出席委員

異議なし

（2）第4章「計画の方向性」について

委員長

では、第4章について協議に入りたいと思います。

三朝町が目指す生涯学習の姿としては「生涯学習の町宣言」に記される3点になります。

「健康で 笑顔のあふれる 町づくり」「心豊かで 高い文化の薫る 町づくり」「産業の振興で 活力のみなぎる町づくり」ということなのですが、これを基にしつつ大事にしたい基本理念や基本目標、基本施策を考えていきたいと思えます。

事前に委員みなさんに考えていただいた事業や理念も資料に掲載していますが、基本施策…具体的に何をしたいかというところを挙げていき、そこから基本理念や目標を考えていきたいと思えます。

みなさんの案を見ますと、何度も出てくるキーワードとして「世代」「世代間交流」「地域でつながる」「絆」「健康の推進」「遊び」「好奇心」等が挙げられます。

これらを踏まえて「こういうこともできるのではないか」「すでにこういう活動をしている」等、御意見を伺って基本施策の案を作っていきたいと思えます。

委員

基本的な事ではありますが「いつでも、誰でも」という言葉があります。これはもちろんですが「どこでも、何でも」といった学びの環境づくりも重要だと思います。学べる環境づくりというのはコミュニティー・スクール（以下、「CS」）の取組も活用しながら大切にしていきたいと思えます。

委員

先日、漢字検定協会の方とお話をしたのですが、南部町がCSと連携して積極的に取り組んでおられるそうです。

漢字検定を学校単位で行うのではなく、CSにおいて地域の人も巻き込んで取り組んでいると。それも一つの環境づくりだと思いますし、地域に広げていくには様々なツールがあるんだなと感じました。

委員長

「学ぶ環境づくり」でも「連携」や「つながる」という良さもあるということですね。

委員

先程の「いつでも、どこでも、誰でも」ということは生涯学習の理念にあたる部分だと思います。このことはやはり大事にすべきだと思います。この言葉はここ何年も触れられていないと感じますが、生涯学習とは本来そういう姿であるべきだと思いますので、それを前面に出していくべきではないかなと思えます。

委員長

確かに「いつでも、どこでも、誰でも、何でも」というのはいろいろな生涯学習のパンフレットにも出てきますが、三朝町の場合を見たときにそこをもっと強調してもいいということですね。

委員

地域協議会について、全体的なまとまりが無いのではないかと…全体的な動きが欲しいなと思えます。

地域協議会それぞれの動きと言いますか、そのことについても盛り込んでいただければと思えます。

委員長

地域協議会も重要なのですが、全体的なまとまりも重要ということですね。

副委員長

事務局に伺いますが、平成10年策定の「生き生きプラン21」に町長をトップにした「生涯学習の町づくり推進本部」は、すでに解散しているものですか。

事務局

現在は活動していません。

委員

私もこの本部が機能していたという記憶がありません。絵に描いた餅で終わってしまうというか、そのようなことが結構あって、1回ぐらいは会議を開いてそこから休眠状態というものも少なくないと思います。

事務局

昨年まで存在していた青少年育成三朝町民会議も同様に、構成団体が肥大化すると組織が形骸化、マンネリ化をしていくことも多いと思います。

副委員長

昔から生涯学習を推進していこうという取り組みは、ここで伺えるんですけど、その後が続いてないということだと思います。

委員長

先ほど、町全体で…という話がありましたが、生涯学習はどうしても様々な課にまたがる部分が出てくると思います。そこを推進していくときに、どこかが検証するようなところを作る必要があると思います。推進体制の話題になるかもしれませんが、生涯学習をこれから進めていく形もプランに盛り込めたらと思います。

副委員長

ですからどこが推進していくかということを作っておかないといけないかなど。この策定委員会が終わって、教育長に答申を出したら、これをどこかが受けて、継承していかなければいけませんよね。

委員

第3章に現状と課題が示されていますが、町民意識調査の結果や策定委員会における意見の他にも、三朝町の生涯学習の現状を…マイナスな部分も全部入れて示した方がいいと思います。

先ほど「学びの環境づくり」の話がありましたが、学びの場に行く機会、きっかけ、その誘因というか…「学習の機会づくり」みたいなものが、現状として足りていない部分があるのではないかと。

「学習機会の現状」みたいな、町民の「学習はしたいけど機会がない」といったことを盛り込むと、また違った見え方になると思います。

また、基本目標・施策がありますが、「重点」目標とか「重点」施策等、(三朝町の生涯学習推進における)核となるようなものが欲しいかなと思います。

委員長

核という部分では、基本施策や目標の数次第かなと個人的には思いますが、参考資料の多賀町生涯学習推進計画にもスローガンのような基本理念が掲載されていますよね。そういうようなものは、今後作れそうなら作ってもいいと思います。

或いは、基本施策の数によって重点施策を・・・みたいにするのが分かりやすいのかということもありますので、これから詰めていってからかなとは思っています。

現状と課題について、確かに意識調査だけではない三朝町ですでにやっている事業とかもありますよね。

第4章の議論に戻りますが、「世代間交流」や「つながり」についてはいかがでしょうか。

委員

最近はどここの集落も子どもが少なくて、子どもとの交流自体がなかなかできなくなっています。

そうすると、学校レベルでなければ対応できないといいますか「世代間交流」をどのように取り組むかという点は悩ましいところです。

CSのように、学校と地域がいかに連携していくかという部分も含めた切り口で考えなければならぬと思います。

委員長

南部町の事例ですが、南部町も子どもが少なくなっているようですが、町に住んでいる高校生たちのサークルを作って、いろんな活動ができるようにしているそうです。

三朝町も同じような環境ですので、そういう人たちも集まれるような環境づくり…学校単位だけではなく、そういう機会を作ることも重要だと思います。

委員

三朝町にもそのような集まりがありませんでしたか？

事務局

過去、ボランティアサークル YORIAI という中高生サークルがありましたが、何年も前に活動休止しています。

今年、三朝町の新たな青少年育成団体として「みさき子ども・若者育成会」が発足されましたが、この会の目指す目標として子どもたちや高校生、若者が三朝町で活躍できる場所を作っていく…ひいては彼らが活動しやすい場所としてサークルを立ち上げていきたいというところまで考えています。

現状を紹介させていただきますと、今年に入って地域で実施する、又は教育委員会の事業に、中学生ボランティアを積極的に募集していきまして、多くの中学生が参加してくれていきまして、中学生がどんどん地域で活躍するきっかけを作っていきたいと思っています。

また、町内在住の鳥取看護大学生から、三朝町のために活動をしたいということをお申し出いただき、現在その学生さんたちと具体的な動きに向けてつながりを持っているところです。

「世代間交流」という点で、子どもだけではなくて若者や学生と地域との繋がりを、教育委員会事務局として推進しています。

委員長

このことについては、交通手段も課題だと思っています。これまでの話の中でも、遊ぶ場がないだけではなく、そこまで行く手段がないから結局、集まらないみたいな話もあり、何か機

会を作ると同時に子どもたちが参加しやすいインフラというか、何かそういうところもあわせて考えなければいけないと感じています。

事務局

このボランティアサークルに向けての活動…子ども若者育成会には、町社会福祉協議会も巻き込んで活動しています。

社協も子どもや若者へのボランティア教育を重要視されていますので、町のボランティア団体として登録すれば、集まる場所としてレスポワールを使ったり、移動手段に社協のバスが使えろといった申し出をいただいています。

委員長も申されていましたが、既存の団体を活用していくということは、我々も考えていきたいと思っています。

委員長

世代間交流は学校単位でという話もありましたが、やはり他と連携しながらやらないと難しいところかなと思います。プランにも「つながり」ということはやはり盛り込んでいきたいと思ひますし、その時に「子どもたち」がキーワードになりそうなのと、大人たちも「つながれる」という意味があると思ひます。

委員

キーワードとして「連携」と「世代間交流」というのは大事なことです。

私は「行ってみたくなる」という、汗を流すけども行ったら楽しいっていう。ボランティアは、全くの苦勞ばかりではなくて、参加することによって何かを得るもの、楽しいものというプラスアルファを中身に設定しないと長続きしないだろうし、一回行ってみただけ、くたびれたからもう嫌だなんてことを言われぬような仕掛けが大事じゃないかなと思ひます。

委員

私もやっぱり楽しくなければいけないと思ひます。それが大事じゃないかなと。そうすれば人も集まってくれるようになると思ひます。

(楽しさがないと) 未来が暗くなってしまうような気がして。

委員長

町民意識調査の中にも、ボランティア活動をあんまりしていないという回答も多かったですよ。ボランティアとか学習っていうと、すごくハードルが高くて、考えて参加しなきゃいけないんじゃないかって思ひますけれど、もう少し気軽にとか、そこで好奇心をくすぐられるような、そういう内容や機会があるといいってことですよ。

委員

逆に言えば「こんなことでもボランティアになります」という話ですよ。いわゆるハードルの低いような形から持っていくのと、最初いきなり高いところから始めると、なかなか参加しにくいかもしれないので。例えば、お年寄りを相手に話をすることもボランティア活動だと思ひますし。

副委員長

でも今、町内でいろいろボランティアを受けてやっていますが、結果を見ると結構楽しかったという意見が大半だと思ひますね。

委員

活動が終わった後にみんなでコミュニケーションを取るのも一番楽しいんじゃないかなと思うんですけどね。

委員長

今の「楽しく」というのは、基本施策というか全体をひっくるめて、大事にしたい理念みたいな感じかなと思います。どの要素にも絡んでくるかなと思いました。

今「世代間交流」の話もあったんですけど、具体的な事業のことで言うと他にも「健康の増進」「自然を生かした体験」とかも挙がっています。スポーツや健康、体験みたいなのところはいかがでしょう。

副委員長

具体的に言えば、キャンプとかを募集すれば集まってくると思います。

そういうときには人材バンクのように、受け入れ側がノウハウを持ったスタッフを10人程度集めてやればできる事業ですよ。

委員

ウォーキングをしている方が多くいらっしゃいますね、朝とか夕方とか。

委員

以前、三朝町でもウォーキングマイレージみたいな事業をしていませんでしたか。

事務局

今もそれと同様の事業はあります。企画健康課の「みんなで歩こうよ」事業です。

副委員長

ウォーキングも生涯学習ですからね。

委員

日頃ウォーキングをしている人に何か目標を持たせるためにプラスアルファみたいなものがあれば、自分も参加しているという意識が出てくるんじゃないかな。

委員長

そういうものをもっと分かりやすく…生涯学習として取り組むということも大事ですよ。湯梨浜町ではウォーキングコースを作って観光にもつなげていますし。

委員

私は町体育協会の水泳部に所属しています。

夏の期間…土日に三朝中学校のプールで、プール開放のような水泳練習会を開催しまして、町民に参加を呼びかけましたら、今年は多くの方ご参加いただきました。

水泳を専門的にやっている方だけではなく、単に泳ぎに来たみたいな感じの人も結構喜んで入っておられたので、そういうことがもっと広がっていくといいのかなあと。

新しいプールにはナイト施設もありますので夜でも泳げるんですね。今年の夏は暑かったので活用期間も長く取れました。

このような町民を対象にした「気軽にスポーツができますよ」みたいに…専門的にやるのではなくて、幅広く町民に声かけて体験してみませんかみたいな。

今年の町スポレク祭に剣道部による剣道体験コーナーがありましたよね。あんな感じで町民に広く呼びかけていって、スポーツをしてもらうみたいなことができるといいのかなと思いました。

事務局

ちなみに姉妹都市の京都府城陽市では、市営プールで毎年8月31にサップ教室をするそうです。城陽市職員に伺うと、多くの市民が参加される人気の講座だそうです。

なぜ1日だけかという、施設利用が8月末までで9月1日から使用しなくなるので、掃除をする前にプールを使った変わった企画をしようということから始まったそうです。

委員

北栄町のB&Gでもサップ体験をやっていますね。

事務局

本町では、ウォーキングだけでなくランニングをされている方も多い印象を持っています。毎年開催している町駅伝大会でも集落やグループで多くの参加をいただいていますし。

委員長

スポーツを考えると施設、設備はすごく大事だなと思うんですよね。それがないとできない競技もあって、それは個人で用意できないものも多くあると思います。

既存の施設…先程プールの話もありましたが、それ以外にも既存施設、設備がもっと使いやすいようにとか、気軽に体験できるようになればいろいろできるんじゃないかと思うんですけど。

事務局

確かに今新しい体育施設を作るとするのは非常に難しいと思いますが、例えば町多目的スポーツ広場…旧テニス場ですが、今年はここで自転車（スポーツバイク）の講座やイベントを開催する等、新たな活用方法も模索しています。

委員

健康づくりのある拠点でもね、図書館っていうのも考えられないでしょうか。

図書館の施設で、何か健康づくりに関するヒントになるようなものが出来ないかなと。

委員長

図書館の端末で本を検索するばかりだ、手しか動かさないんですよね。でも図書館で本を探すと、実はしゃがんだり屈伸するようなエクササイズになるので図書館で本を探しませんかみたいなことを高齢者向けの事業としてやっている例があるんですよ。

体を動かすと逆に集中力もつくみたいなことも言われていて、子どもたちにも体を動かして、何か探したり考えようということもできるかなと最近思うんです。

健康づくりの場はいろいろあるよっていう、何か考え直すというか、それも全部生涯学習につなげるみたいな要素があってもいいかもしれません。

委員

生涯学習という言葉でくくると、あらゆる世代に対してという形になってくるだろうと思いますよね。

私が好きな言葉に「**教えは家庭の教えで芽を出して、学校の教えで花を咲かせて、社会の教えで実る**」というものがあります。まさにこれが生涯を通しての基本になる言葉だろうと思います。

委員長

なかなか家庭がそれぞれ個別になってしまっているところもあるかなと個人的には思うので、家庭内…親も実は教わらずにきているところもありますし、何かこう連携してできる事業があればなどは思います。

事務局

この言葉は、各委員の事前検討資料にもあります**ライフステージに合わせた多様な学びづくり**という意見にも通じる理念だと思いました。

副委員長

私は**地域移行協議会に対して、非常に期待を持ちたい**と思っています。

町の中心で何かをしようと言ってもなかなか難しいので、もう少し小さい単位で…6地域の協議会が母体になって、地域の子どもたちを、川や山へ連れて行って何かをさせるとか、ちょっとした祭りなり行事があったら、子どもたちも引っ張り出して、何かをさせるとか、一緒にするというのを、協議会単位が本当に主体になってやっていただくような仕掛けを、町がしていく。

例えば昨年度、社会教育課の講座で竹筒炊飯の講座を募集してもらったんだけど、参加者が集まらなかったんですね。町報と一緒にチラシを配ったりしても、なかなか難しいので、あれが地域協議会単位になると、人数は少ないかもしれないけど集まりやすい。要は受け皿というかね。

委員長

地域協議会はやっぱり大事だと思います。町全体でというのも大事ですけども、その単位として考えたときにやっぱり欠かせないと思うんですが、何か地域ごとの差とか、活動を盛り上げようというところでもサポートが必要だと思います、リーダーを養成したりとか。

副委員長

実際に地域協議会は結構いろんなことをやっておられます。

要するに「世代間交流」ですよ。大人だけではなく、子どもたちも一緒に何かできないかなと。そういう努力をもう少しして欲しいなという思いがあります。

委員長

地域協議会が実施している活動が、参加していない人にとって分かりづらいとかってありますか？

別の議論になるかもしれませんが、**生涯学習についての広報や発信はとても大事だ**と思っています。「やっているけど知らない」とか「もう事業が終わっていたんだ」とかということもあるので、学習に参加するきっかけづくりみたいな話もあったんですけど、そもそも知る機会が無いともったいないって思います。

委員

地域協議会はひっくるめたら全部の事業が生涯学習なんですよ。だけど、生涯学習という意識はなくてやっているんです、事業っていう感じで。

だから、協議会事務局もそうだけど、各部の部長さんとかもそうだし、それが生涯学習の一環だよっていうことすら意識なくてやっているんですよ。青少年育成部会で企画するクリスマス会でも、子どもたちとその部会の、大人たちと一緒にいろんなことしたりするので。

意識があるかないかっていうことで何か変わるかなと思ったら、負担に感じられることがひよっとすればあるのなと思ったり。協議会事務局もすごい大変でね、負担が大きいですよね。

現在、地域協議会のあり方検討会においても、6地域が一緒になった町づくりセンター構想も検討しているところです。

委員

前回の検討委員会から今回の会議にかけて、動いていたのが、長生・健康的になりたいという方がたくさんいる中で「人生100年時代」だということもキーワードになってきていると思います。

今までの生涯学習では、上の世代が下の世代を教えるというのが大体のニュアンスだったと思うんですけども、人生100年時代になってくると、逆に若い世代が今の世の中の事象だったり、今の当たり前を年上に伝えていく、教えてあげるということもポイントになってくるんじゃないかなと思います。

私が現在行っている学びとしては、大学生にSNSの使い方…Facebookとインスタグラムの違いであるとか、LINEは何が便利で効果的だろうということを聞いて、学生にアカウント作成も含めて教えてもらうと。SNSを活用できれば、田舎でもこんなことができるよっていうことを発信できるということ。

若者がSNSの活用を40～50代の人たちからでも教えてあげると、もっと発信力が地域でも大きくなるのではないかと考えています。

委員

テレビ番組で、若者がお年寄りにメルカリの使い方を教える取り組みが紹介されていましたね。

委員

先ほど町づくりセンター構想の話がありましたが、新たな生涯学習推進プランもセンターと連携しながら地域協議会に広げてもらうのはどうでしょうか。ちょうどいいタイミングなのかなって感じはしますよね。

委員長

あとCSも。

委員

せっかくのいい機会ですので役場内でも横の連携を意識していただきたいです。

委員長

いずれにしても地域協議会については、先ほども町全体の動きが欲しいというご発言もあったように、地域協議会がそれぞれでやっていることをどこかが取りまとめるっていうのは大事

だと思います。

委員

そういう組織が必要だということですね。

事務局

今のお話を第4章の中でリンクさせていくとすれば、**基本施策として「各種機関との連携」**…というニュアンスになるかなと思いました。それは町づくりセンターに限らず病院とか大学とか、CS、地域協議会…**連携を核とした学習機会の提供**という大きな括りでキーワードとして出てくるのかなと感じました。

委員

湯原温泉ではのれんで町づくりをされています。それぞれの旅館や店舗に華やかなのれんがかけてあって、建物は古い感じなんですけどのれんが新しく色味があるだけで、空間が明るく見えるんですよ。それを見に来たお客さんに、各店舗も是非中に入って見てくださいとウェルカムな感じで。

これを三朝温泉でやっても面白いかなと思いました。

委員長

文化的要素…これまで挙がっていなかった事業の内容としても、**アート、歴史、文化財的な部分の活用っていうのも大事**かなと思います。

委員

生涯学習の町宣言にも“心豊かで 高い文化の薫る 町づくり”と記されています。

町の現状としてどちらかと言うと体育的なことに軸足が大きいけれども、**文化的な活動という点ではまだまだちょっと弱い、少ない**のかなっていう感じはあります。

町内の文化団体はこつこつと活動を続けていますが、私が嗜んでいる俳句会でも作品の応募がなかなか増えていません。会員数が増えないという団体も多いんじゃないかなと思いますが、ぜひそういうところに参加して欲しいなど…豊かな生活を送るために知的な部分の活動にも軸足を置くべきではないかなという感じはしております。

委員

芸術活動をされている方は町内でもたくさんいらっしゃるんですけど、周りの人との距離感が近いのであえて言わないっていう人も多いようです。例えば、作品を県外の方にネットで出展、販売されている方もいらっしゃるようです。

また、文化活動が盛んな他市町で活動されている方もいらっしゃるようです。

事務局

文化・芸術活動も一つの学習機会ですが、町としてこれらの事業が広く展開できていないところがありますので、そこは新たな施策、学習機会として考えなければならないことだと感じます。

委員長

町民意識調査結果で**文化・芸術を鑑賞することに興味はあるけど、自分が参加したいという回答は少なかった**記憶があるんですよ。その辺が気になっています。

事務局

前回の策定委員会のグループ討議で「自分たちも企画する立場になってもらうようになればいいな」というご意見がありました。

要するに、町や地域協議会が学習機会を提供するだけではなくて、町民自ら提案してもらえるような観点はすごく大事だなと考えていまして、その辺も基本施策に盛り込んではどうかなと思いますが、これについてはいかがでしょうか。

委員

まさにルールの上を行くんじゃなくて、自分たちでこういうことをやってみたいっていうことを提案して行って「この指止まれ方式」っていうのはやはり必要な考え方だろうと思う。

事務局

推進するだけじゃなくて、継続していかなきゃいけないんだろなってなったときに、例えば町職員は人事異動で担当者が変わります。その中で、当初のモチベーションを維持することはなかなか難しいだろうと経験上思うんですよ。

せっかくプランを作ったとしても、最初は熱量があるがだんだんと下火になっていくおそれがあるなど。

そこで継続させるためには、町民皆さんが「楽しいな」「やりがいがあるな」というところで、住民目線で続けていく形をとった学習方法或いは方向性の方が、継続性があるのかなと思いました。

委員長

継続ありきだとマンネリ化しそうなので、何かプロジェクトごとに期間を短くするものもあってもいいし、長く細く続くのがあってもいいし、いろんな形があってもいいかなと思います。

事務局

提案しやすい事業や講座とといいますか、例えば毎年事業提案を募集するとか、同じことを続けるのではなく、やりたいことがやりやすい、学習しやすい三朝町を目指すのもいいんじゃないかと。

委員

智頭町がやっていた100人委員会ではないけれども、そこで話し合っただけでこれはいいなという提案を町が予算をつけて提案者に責任を持ってやっていただくというやり方ですね。

委員

儲かるサークル活動もあったらモチベーションが続くのでは。

委員

町民が自分から動いていくような姿っていうのはすごく大事だと思います。5年後、10年後に町民が学びたいと思うものがあって自分がチョイスできるというのも一つですが、それだけではなく地域の方がやりたいなと思ったときに、提案ができて、それをサポートする体制があっただけっていうような、そこを目指していこうと思うと、広報の仕方とか、それこそ連携体制とか、そういったところを強化されていくと思うのでそれは大事なかなと思います。

また、初回から委員長が仰っていた「リーダー育成」「人材育成」という観点も重要なキーワード

ードだと思えます。

委員長

最近のスローガンに「人づくり、地域づくり、つながりづくり」というものがあります。やはりそこを支える人というか、特に企画・運営するとなると、リーダーシップ的な部分も必要だと思えます。

それでは本日のまとめに入ります。

今日はいろいろなキーワードが出ましたが、これらのワードを基本施策として挙げてもいいんじゃないかなと思えます。

「学ぶ環境づくり」「推進体制・つながりづくり」「健康づくり」「地域づくり・まちづくり」「企画・提案する機会を作ろう」「文化振興」…その辺が、あるかなと思えます。

大事な要素として挙がっていたのが「いつでも、どこでも、誰でも、何でも」「楽しく・元気に」「儲かる」「参加しやすい」「提案しやすい」…この辺を理念、或いは目標に組み込みたいなと個人的に思いました。

委員

「人に会う」というのもキーワードとして考えます。

事務局

現在の御意見を見ると大きく3つにまとめることが出来ると思えます。

「文化・スポーツの振興」「企画・提案する機会とつながりを創出」「学びの環境と町づくり」。

委員長

この3つは生涯学習の町宣言にもリンクしますね。「健康」「文化」「産業の振興…広く言うと町づくり」。生涯学習の町宣言の現代バージョンとして3つの柱にしてもいいかなとも思えます。

そこを支える「学びの環境づくり」「体制づくり」「つながりづくり」みたいな感じかなと。これを叩き台に、基本施策と目標を提案できるかなと思えます。

事務局

今後の会議の流れですが、本日大きく3つの基本政策・目標を出していただきました。これを事務局でまとめて、第4章の原案を作成します。この原案を、次回通知時に同封して予め御検討いただいた上で、次回に御協議いただきたいと思えます。

さらに次回は基本政策・目標を実現するための具体的内容を協議、決定していきたいと思えます。

委員長

その他が特に意見がなければ本日の会議を終了します。いろんなご意見ありがとうございました。引き続きどうぞよろしくお願ひします。